

地水火風

牧野 恒一

東日本大震災から7ヶ月が経とうとしている。被災地では、津波の瓦礫の撤去が進み、避難所に避難していた方々も多くは仮設住宅などに移って、新たな生活に向けて

徐々に進み始めているようだ。一方で、肉親や親しい人を失った人たちの心の傷は大きく、生活基盤を失って途方に暮れている人々も数知れない。福島第一原発も、一時的破滅的危機の恐れはとてあえず遠のき、工程表に沿って事故処理が進んでいるのを見えるが、避難を余儀なくされている人たちの苦勞はもちろ

る各種施設の破壊などの状況が、具体的に報告されている。その理由は、新築や耐震改修などにより耐震性の低い建物が減ってきていることのほか、今回の地震動には中低層の建築物を破壊する能力の高い「周期1秒前後の地震動(キラーパルス)」の成分が少なかったことが大きいのではないかと

「危険物施設の耐震性の強化はかなり進んでいる」 阪神・淡路大震災の経験と十勝沖地震の出力石油のタンク火災の経験を

止中ものを除けば事実上100%が適合済みになっている。また、1千k1~1万k1のものについては、同様に平成27年末期限が平成25年末期限に前倒しされ、4273基中3229基(75%)が適合済みである。この数字や前記の対策が進んでいること、今までの広範囲にわたった大きな揺れでも危険物施設

なれば各省庁の様々な施策も効果が半減してしまふ。自治体も、国の方針が定まらなければ、本格的復興に向けた次の一歩がなかなか踏み出せない。

「危険物施設の被害」 地震直後に見た映像

「地震の規模の割に少ない」 阪神・淡路大震災では、地震動にキラーパルス成分が多く、多数の建築物が破壊され、危険物施設も防油堤は破壊されたが、危険物施設の

「耐震対策を実施すれば、それなりの効果は必ずある」 今回の大地震で、日本は津波については想定外の大被害を被ったが、揺れについては想定内に収めることが出来たと言え

かめてみる必要はありそうだ。 「耐震対策を実施すれば、それなりの効果は必ずある」 今回の大地震で、日本は津波については想定外の大被害を被ったが、揺れについては想定内に収めることが出来たと言え

東日本大震災と石油コンビナートの被害

「危険物施設の被害」 地震直後に見た映像

「危険物施設の被害」 地震直後に見た映像